

決議（案）

山陰近畿自動車道は、日本海国土軸を形成する道路で、京都府内外との地域間交流の促進や防災ネットワークの構築など、地域経済の発展に重要な幹線道路であるにもかかわらず、全国的な幹線道路網の整備の中で唯一の「空白地帯」となっており、最も整備が遅れている。

こうした中、長年の悲願であった野田川大宮道路が、本年中に開通予定であり、昨年の京都縦貫自動車道の全線開通に加え、新名神高速道路（城陽く八幡）の本年度内の開通により、高速道路が京都府の南から最北端まで結ばれることとなり、観光客の増加など、ストック効果がさらに期待できる。

しかし、山陰近畿自動車道は、京都府約四十四キロメートルの内、供用開始及び事業化の決定区間は、全体の三十五パーセント程度であり、一日も早い全線完成が地域住民の願いである。

これらのことから、地域の経済発展、安心・安全の確保及び、国土の強靱化を実現するため、国による早期整備を引き続きお願いするところである。

このため、本協議会会員一同は、山陰近畿自動車道の早期完成を目指し、協議会の総意を結集し、次の事項について、強く要請する。

山陰近畿自動車道の

- 一、野田川大宮道路の年内の供用開始に向け、事業の推進と情報発信を行うこと
- 一、大宮峰山道路の事業を推進すること
- 一、大宮峰山インターチェンジから網野インターチェンジまでを早期事業化すること
- 一、豊岡市までの区間について本調査を実施すること

以上、決議とする。

平成二十八年六月二日

丹後地域高規格道路推進協議会